

JIA- 0029788

FEB. 1987

(54) MULTI-CYLINDER ROTARY TYPE COMPRESSOR

(11) 62-29788 (A) (43) 7.2.1987 (19) JP

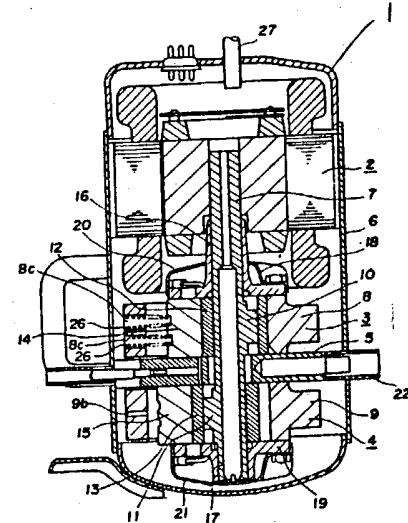
(21) Appl. No. 60-168114 (22) 30.7.1985

(71) MITSUBISHI ELECTRIC CORP (72) SHUJI FUJISAKI(4)

(51) Int. Cl'. F04C23/00

PURPOSE: To facilitate the assembling of a multistage compressor and further enable the reduction in the starting torque thereof by providing vane springs in one of plural compression elements and introducing the internal pressure in a closed vessel to the back of the vane of the other compression element.

CONSTITUTION: In a closed vessel 1, an electric motor 2 and two compression elements 3, 4 are arranged. In the back of the vane 14 of a compression element 3 on one side of two compression elements 3 and 4, vane springs 26 are arranged, and, to the back of the vane 15 of the compression element 4 on the other side, the discharge pressure in the internal space of the closed vessel 1 is introduced via a passage 9b instead of providing vane springs. Thus, in starting, driving torque is hardly required for the compression element 4 on one side until the discharge pressure in the internal space of the closed vessel 1 is raised, enabling the reduction in the starting torque as a multistage compressor, and further the number of vane springs can be reduced, and the assembling of a multistage compressor can be facilitated.



ONE VANE SPRING BIASED
SECOND VANE DISCHARGE PRESSURE BIASED

⑯ 日本国特許庁 (J P) ⑮ 特許出願公開
 ⑰ 公開特許公報 (A) 昭62-29788

⑯ Int. Cl. 4
 F 04 C 23/00

識別記号 厅内整理番号
 8210-3H

⑯ 公開 昭和62年(1987)2月7日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全5頁)

⑯ 発明の名称 多気筒回転式圧縮機

⑯ 特願 昭60-168114

⑯ 出願 昭60(1985)7月30日

⑰ 発明者 藤崎 修二 静岡市小鹿3丁目18番1号 三菱電機株式会社静岡製作所
 内

⑰ 発明者 東山 一成 静岡市小鹿3丁目18番1号 三菱電機株式会社静岡製作所
 内

⑰ 発明者 忠 五雄 静岡市小鹿3丁目18番1号 三菱電機株式会社静岡製作所
 内

⑰ 発明者 山田 秀彦 静岡市小鹿3丁目18番1号 三菱電機株式会社静岡製作所
 内

⑰ 出願人 三菱電機株式会社 東京都千代田区丸の内2丁目2番3号

⑯ 代理人 弁理士 大岩 増雄 外2名

最終頁に続く

明細書

1. 発明の名称

多気筒回転式圧縮機

2. 特許請求の範囲

(1) 電動要素と、この電動要素により駆動される複数の回転圧縮要素をクラシク軸で連結し密閉容器内に収納した多気筒回転式圧縮機において、シリンダー内を吸入室と圧縮室に区分するペーンをローリングピストン外周に押圧するペーンスプリングを複数の圧縮要素のうち一つにのみ設け、他の圧縮要素には密閉容器内空間とペーン背部とを連通する通路を設けたことを特徴とする多気筒回転式圧縮機。

(2) 圧縮要素のうち、ペーンスプリングを設けた圧縮要素とペーンスプリングを設けない圧縮要素が各々一つ以上で構成したことを特徴とする特許請求の範囲第1項記載の多気筒回転式圧縮機。

(3) 圧縮要素を上、下方向に配置し、ペーンスプリングを設けない圧縮要素を下側に配設したことを特徴とする特許請求の範囲第1項および第2項

記載の多気筒回転式圧縮機。

3. 発明の詳細な説明

[産業上の利用分野]

この発明は、多気筒回転式圧縮機に関するものである。

[従来の技術]

第2図は例えば実開昭55-167592号公報に示された従来の多気筒回転式圧縮機を示す断面図であり、図において、2は電動要素、3、4は仕切板5で上、下に区画された圧縮要素で、これらは密閉容器6内に収納されクラシク軸7により連結されている。圧縮要素3、4はシリンダー8、9と、このシリンダー内をクラシク軸7の先端部で180°回転角をずらした偏心部10、11により偏心回転するローリングピストン12、13と、両ローリングピストンに先端部を当接してシリンダー8、9内を吸入室と圧縮室とに区分するペーン14、15と、上記シリンダー8、9の上下開口部を閉塞すると共に、クラシク軸7の軸受部16、17を有する上部枠体18および下部枠体

19と、両枠体18, 19に各々設けたカツプ状の吐出マフラー20, 21と、上記ページ14, 15の背部に取付けたペーンスプリング26と、吸入管22, 吐出管27とから構成されている。

次に動作について説明する。吸入管22より圧縮要素3, 4へ吸入された冷媒ガスは、クランク軸7の回転によつて圧縮・吐出されマフラー20, 21を経て密閉容器6内の空間に導かれ、吐出管27より吐出され図示しない冷凍サイクルを循環する。シリンダー8, 9内を吸入室と圧縮室とに区分するページ14, 15の背部に接着したペーンスプリング26は運転開始時の密閉容器6内およびシリンダー8, 9内の冷媒ガス圧力がバランスしている時にページ14, 15の先端をローリングピストン12, 13の外周に押圧して吸入室と圧縮室とに区分するために設けられており、第3図に示すようにシリンダー8の外周部よりペーン14が往復動するペーン溝8aとを連通する孔8bを設け、この孔8aにペーンスプリング26を接着してペーン14を押圧している。

シスプリングを設けない圧縮要素が、ペーンスプリングを設けた圧縮要素の運転により圧縮・吐出された密閉容器内の高圧冷媒ガスをペーンの背部に導くことにより、ペーン背部とシリンダー内との冷媒ガスの圧力差によりペーンをローリングピストンに押圧し、シリンダー内を吸入室と圧縮室とに区分することで圧縮要素としての機能を行うことができる。

〔発明の実施例〕

以下この発明の一実施例を図について説明する。第1図において、3は回転圧縮要素で、ペーン14の背部にペーンスプリング26を設けており第2図に示した従来のものと同一である。4の回転圧縮要素は、ペーン15の背部のペーンスプリングを廃止したもので、ペーン15の背部と密閉容器6内空間とを連通する通路9bをシリンダー9に設けたものである。この通路9bの大きさは、ペーンスプリング26を接着したシリンダー8に設けるペーンスプリング取付穴8cに比べて小さくしてある。なお、その他の符号は第2図に示した従

〔発明が解決しようとする問題点〕

従来の多気筒回転式圧縮機は以上のように構成されており、各々のシリンダー8, 9にペーンスプリング26を接着しているため、部品点数が多くなり、かつ組立ての作業に時間を要する。またシリンダーにペーンスプリングを接着する孔8bをあけていたためシリンダーの強度が低下する等の問題点があつた。

この発明は上記のような問題点を解消するためになされたもので、部品点数を少なくしつつ、組立て作業を容易に行なえる上、シリンダーの強度を向上できるようにした多気筒回転式圧縮機を得ることを目的とする。

〔問題点を解決するための手段〕

この発明に係る多気筒回転式圧縮機は、ペーンスプリングを複数の圧縮要素のうち一つに設け、他の圧縮要素には密閉容器内空間とペーン背部とを連通させる通路を設けたものである。

〔作用〕

この発明における多気筒回転式圧縮機は、ペー

来のものと同一である。

この発明における多気筒回転圧縮機は、ペーンスプリング26を接着した圧縮要素3においては、ペーンスプリング26によりペーン14は常時ローリングピストン12に押圧され、シリンダー8内はペーン14により区分されているのでクランク軸7の回転開始と同時に圧縮を開始し、高圧冷媒ガスを密閉容器6内へ吐出する。一方、ペーンスプリングのない圧縮要素4は圧縮機の停止状態、すなわち始動直前の状態ではペーン15をローリングピストン13に押圧する力がないのでシリンダー9内を区分することができないためにクランク軸7が回転してもローリングピストン13はシリンダー9内で空転し、冷媒の吸入・圧縮作用が行なわれない。したがつて、ペーンスプリング26を設けた圧縮要素3では、圧縮・吐出がくり返され密閉容器6内の冷媒ガス圧力は徐々に上昇する。しかしペーンスプリングのない圧縮要素4においては密閉容器6内空間とペーン15の背部とを連通する通路9bによつてペーン15の背部には圧

縮要素3で圧縮、吐出された高圧冷媒ガスが作用する。この時、シリンダー9内においてはクランク軸7が回転してもローリングピストン13は空転しているので、低圧吸入冷媒ガス圧力となつてゐる。このためペーン15には背部に作用する高圧冷媒ガスとシリンダー9内の低圧吸入冷媒ガスとの圧力差によつてペーン15をローリングピストン13に押す力が作用し、この力によつてペーン15とローリングピストン13が接した瞬間より圧縮作用が開始され、従来例で示した多気筒回転圧縮機として能力を発揮することができる。これによつてペーンスプリングの数が低減でき、ペーンスプリングの取付作業も容易に行なえる。また、シリンダー9の通路9bはペーンスプリング取付穴8cに比べて小さくてもよいので、シリンダー9の強度も高くなる。

さらに、この発明の圧縮機は、始動時にはペーンスプリング26を設けた圧縮要素の負荷となり、スプリングを設けない圧縮要素の負荷は電動機のスプリングを設ける圧縮要素は一つあれば他の圧縮要素のペーンスプリングは廃止しても始動後ある程度時間がたてば全ての圧縮要素で通常の圧縮操作を行なうことができる。勿論、ペーンスプリングを設ける圧縮要素と、ペーンスプリングを設けない圧縮要素の組合せは各々一つ以上あれば任意でよい。さらに実施例ではペーンスプリングがコイルばねの場合について説明したが、線ばねの場合でもよい。

[発明の効果]

以上説明したようにこの発明によれば、多気筒回転式圧縮機のペーンスプリングを一つの圧縮要素に設け、他の圧縮要素にはペーンスプリングを設けず密閉容器内空間とペーン背部とを連通させる通路を設けるようにしたので、部品点数が低減でき、かつ組立作業が短時間で行なえる上、シリンダーの強度が向上できる。また、始動時のトルクが低減できるので電動機の効率が向上し、始動時の振動、衝撃を小さくできる等の効果がある。

4. 図面の簡単な説明

第1図はこの発明の一実施例による多気筒回転式圧縮機の断面図、第2図は従来の多気筒回転式圧縮機の断面図、第3図は同じく従来のシリンダーとペーンスプリングの斜視図である。

2…電動要素、3、4…圧縮要素、6…密閉容器、7…クランク軸、8、9…シリンダー、9b…通路、12、13…ローリングピストン、26…ペーンスプリング。

なお、図中、同一符号は同一又は相当部分を示

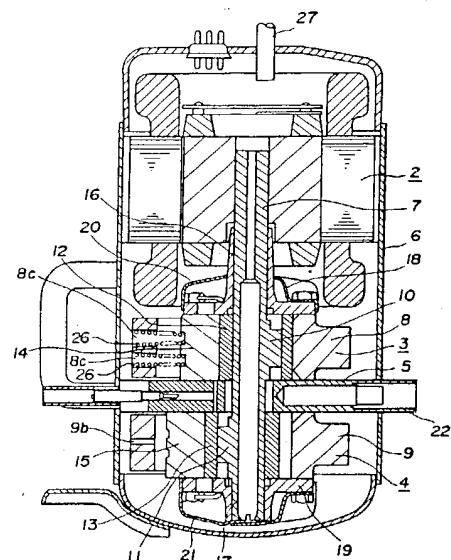
さくすることができ、定格運転時の電動機効率を高める設計が可能となり運転中の効率を高めることができ。しかも始動時のトルクが低減できるので圧縮機の振動や衝撃が小さくなりユニットの配管や防振構造が簡略化できる。

なお、実施例では2気筒式の圧縮機の場合について示し、上側の圧縮要素3にペーンスプリング26を設け、下側の圧縮要素4はペーンスプリングを設けない場合を示したが、逆に下側の圧縮要素4にペーンスプリングを設けるようにしてもよい。また3気筒以上の多気筒の場合においてもペーンスプリングを設ける圧縮要素は一つあれば他の圧縮要素のペーンスプリングは廃止しても始動後ある程度時間がたてば全ての圧縮要素で通常の圧縮操作を行なうことができる。勿論、ペーンスプリングを設ける圧縮要素と、ペーンスプリングを設けない圧縮要素の組合せは各々一つ以上あれば任意でよい。さらに実施例ではペーンスプリングがコイルばねの場合について説明したが、線ばねの場合でもよい。

す。

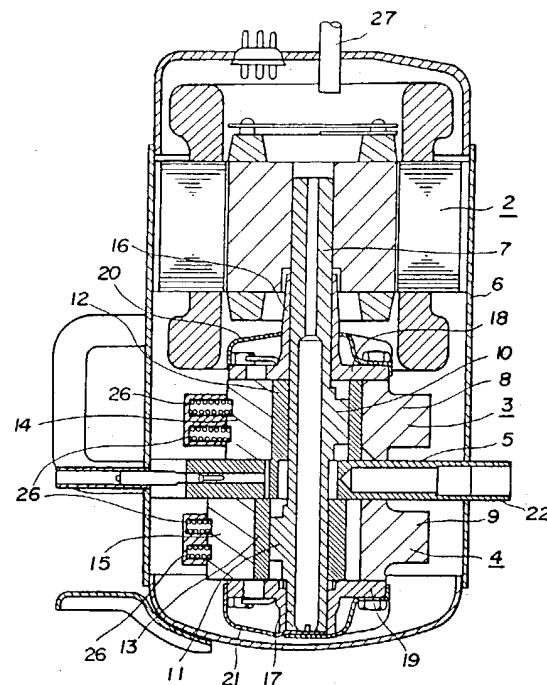
代理人 大岩増雄

第1図

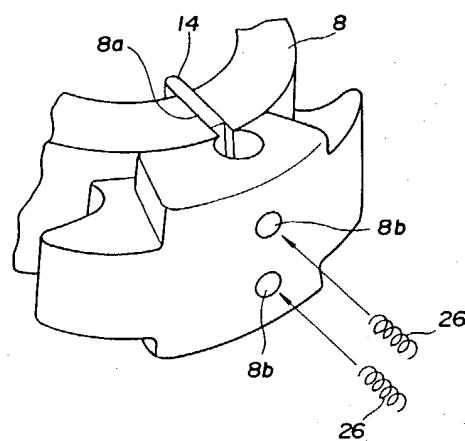


2: 電動穿刺
3,4: 互換穿刺
6: 空開弁器
7: ワンク軸
8,9: シリンダー
9b: 通路
12,13: ローリングアピストン
14,15: ベージ
26: ベーンスアリニア

第2図



第3図



第1頁の続き
②発明者 白藤 好範 静岡市小鹿3丁目18番1号 三菱電機株式会社静岡製作所
内